

3 東部地域のまちづくり方針

(1)地域のあらし

■位置・面積

- ・東部地域は平塚市総合公園を中心に北方面に向けて広がる位置にあり、東の相模川、西の鈴川、北の渋田川に囲まれています。かつては大野町に属し、昭和31年9月に平塚市に編入されました。
- ・地域の面積は996.2haで全市の約15%を占めます。うち中原地区は341.5ha、大野地区は654.7haです。
- ・中原地区は南原小と中原小と大原小と松が丘小学校区、大野地区は八幡小と大野小と真土小学校区が含まれます。



■人口・土地の利用

- ・人口は全市の23%を占めます。中原地区は横ばい傾向、大野地区は増加傾向にあります。(平成17年国勢調査)
- ・市街化区域^{*}は、地域の約85%を占めますが、宅地化農地^{*}の住宅地化など市街化の進行が見られます。
- ・江戸から中原御殿に向かう中原街道の沿道に形成された中原や、真土及び大野などの集落が少しずつ住宅地の広がりをみせて成熟してきた地域で、市内で最も人口が多い地域です。
- ・八王子平塚停車場線や国道129号沿道は、店舗や自動車関連施設などが建ち並び、沿道サービス系の用途の土地利用が進んでいます。
- ・昭和30年代から相模川沿いや海軍火薬廠跡地で大規模な工場用地が形成され、現在、工業系土地利用は地域の4割ほどを占めています。

■地域の資源

- ・市民の誇りであり人気のスポットである平塚市総合公園は、昭和59年度に平塚球場、昭和61年度に平塚競技場、そして平成2年度に平塚総合体育館、テニスコート、ふれあい動物園のポニー乗馬場が開設され、多くの人に利用されています。
- ・相模川や渋田川、鈴川には豊かな自然があり、市民の憩いの場となっています。
- ・中原地区には、御林や中原御殿の名残を今に伝える松林や大手道があり、往時をしのばせる碑などが街角に点在しています。



国道129号



工場群と、向こうに総合公園

(2)地域の主な課題

■住まい環境の課題

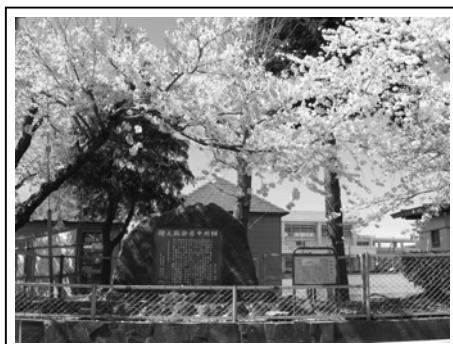
- ・戸建ての多い住宅地は、近年中高層マンションの立地やミニ開発が進み身近なみどりの消失や生活道路への自動車の流入などが見られ、良好な居住環境の保全が課題です。
- ・工場と住宅の土地利用の混在により、相互の用途の立地環境に弊害を生じているところがあります。土地利用の整序が課題です。

■地域の資源をいかすための課題

- ・相模川河川敷や沿川には、自然とスポーツを楽しめる空間があり、川に沿って連続して満喫できるようにすることが望まれます。
- ・中原の歴史をもっといかすことが望まれます。住宅地のなかにあることに配慮する必要があります。



相模川河川敷



中原御殿之碑

(3)地域のまちづくりの目標と将来像

■まちづくりの目標

- 人気の高い総合公園や渋田川、中原の歴史などの活用
- 身近なみどりの保全による、ゆとりある住まいの形成
- 住宅と工場の相互協力による活力ある生産環境の形成

■将来像

総合公園や水辺のある快適な住まい環境と、 活力ある生産環境が調和するまち

相模川と渋田川の流れを外縁部とする東部地域は、みどりと水が人と人をつなぎ、活力ある産業と人々の暮らしが調和した働きやすく住みやすいまちをめざします。

(4)地域の分野別の方針

(4)－1 道路と交通

■道路一般

- ・湘南新道の国道 129 号以西への延伸や荻原八幡線など未整備となっている都市計画道路の段階的な整備を進めます。
- ・安全で円滑な生活交通確保のため、既存の道路空間をいかし再配分することにより、歩道や右折レーンを確保するなど、効率的で効果的な道路整備を進めます。

■バス交通

- ・バス交通の円滑な走行や利便性向上のため、バス停の環境整備などを進めます。

■歩行者空間、自転車利用環境

- ・歩行者や自転車利用者のため、安全に通行できる空間確保や交通安全施設などの環境整備を進めます。
- ・自転車利用環境の向上のため、自転車走行空間の創出や自転車ネットワークの形成に努めます。また、バス停周辺において駐輪場の設置を検討します。
- ・谷川排水路や、真土大塚山公園から渋田川に至る排水路は、上部をいかしたコミュニティ道路※の整備に努めると共に、鹿見堂排水路の整備については関係機関と連携しながら進めます。

(4)－2 住まい環境

■住宅地

- ・八王子平塚停車場線、平塚伊勢原線の東西に広がる住居系市街地は、戸建てを中心とした低層住宅地として、みどり豊かな居住環境を形成します。
- ・道路などが必要なところは、居住環境や防災性を高めるため、生活道路や下水道施設などの公共施設整備を進めます。

■近隣商業地または沿道市街地

- ・地域生活に密着した身近な商店街は、その維持と魅力づくりに向けた取組みを検討します。

■工業地

- ・総合公園北側、東浅間大島線沿道、相模川沿いなどの工業系市街地は、工場外周部の緑化を誘導すると共に、生産環境の充実と産業機能の高度化に努めます。住工混在地域は、その解消を進めつつも地区計画※などを活用し、工業系土地利用に配慮した住環境の改善に努めます。

■公共公益施設

- ・大野子どもの家や地区公民館などの公共公益施設は、地域の様々な活動を支える拠点として、誰もがつかいやすいように施設の柔軟な運営と管理に努めます。
- ・相模川流域下水道右岸処理場は、上部の有効利用など周辺環境に配慮した環境整備に努めます。

(4)－3 景観やみどりと水辺

■代表的な景観

- ・市民に親しまれ 10 万本の木々が植えられている平塚市総合公園は、豊かなみどりを大切に保全します。
- ・渋田川や金目川などは、地域にふさわしい花々や樹木に彩られた河川景観を創出します。
- ・相模川や幹線道路沿いの工場地は、みどり豊かなうおいある工場地景観を形成します。

■みどりと水辺空間、ネットワーク

- ・川の表情豊かな玉川橋南付近では、水辺の親水空間をいかしたみどりと水辺のふれあいスポットの形成に努めます。
- ・金目川から渋田川の川辺や相模川の河川敷においては親水空間をいかし、みどりと水辺のネットワークづくりに努めます。

■公園や広場

- ・相模川河川敷は、スポーツやレクリエーション利用ができるように努めます。
- ・身近な公園や広場は、地域ニーズに応じ、また地域住民の参加により、誰もがつかいやすく親しみのある空間づくりを進めます。

(5)地域の資源をいかした魅力づくりの方針

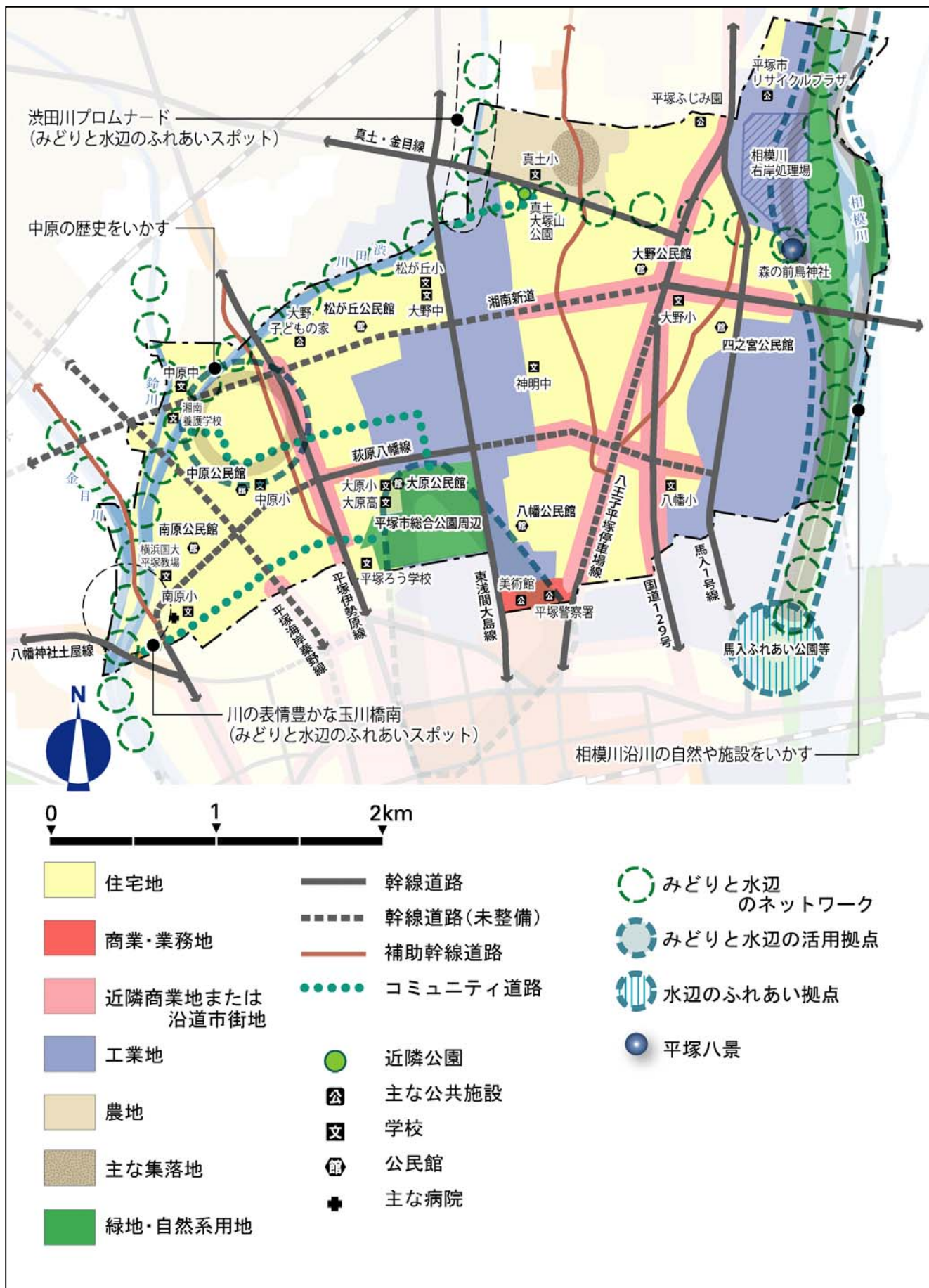
■相模川の自然や河川沿いの施設をいかす

- ・相模川においては、桜を始めとする堤防沿いの並木、河川敷や相模川流域下水道右岸処理場上部のスポーツ空間などの魅力づくりに努めます。また、平塚八景の一つである森の前鳥神社を含め、相模川の自然を連続して満喫できるよう、歩行者や自転車利用者のための環境整備に努めます。

■中原の歴史をいかす

- ・中原地区は、徳川家康由来の中原御殿や中原街道などの歴史資源があり、その歴史性をいかしたみどり豊かな住宅地を形成し、点在する碑などを散策できるよう歩行者にやさしいまちづくりを検討します。

東部地域のまちづくり方針図



地域の魅力づくりに向けて ～地域主体の取り組みイメージ～

地域のまちづくりの目標と将来像の実現に向けたこれからのまちづくりは、「様々な主体が各々の役割を果たす協働の取り組み」であり「地域自らが行う」ことが重要です。ここでは、地域の資源をいかした取り組みを進めるため、地域主体の取り組みイメージの例を示します。

■例1：玉川橋南の親水性を高める

玉川橋の南は金目川と鈴川の合流地点になっており、川の表情が豊かな2つの水の流を楽しむことができます。このため親水性をもっと高めることが望まれます。

水辺でのみどりや花の植栽、両岸の住民同士による交流、川の流れをいかした環境学習などを、河川管理者の理解と協力のもとに進めることが考えられます。

管理や清掃も地域が主体的に行い、定期的に事業所からの大勢の手伝いがあると、イベントなどの開催で大にぎわいすることが期待されます。



鈴川親水広場



住宅地（中原）

■例2：住民同士の助け合いによるみどりの保全

地域内の住宅には、みどり豊かな高木のある屋敷が多くありますが、住民の高齢化や管理費の問題などから維持が難しく、やむをえず伐採してしまう例が見られます。

このような場合は、維持に困っている人と、ボランティアで剪定できる人がうまく調整できれば多くが解決されると考えられます。

こうした日常の問題を地域の人材でうまく解決でき、必要とする側と提供する側とでうまくつながる組織があると便利です。

■例3：住まい環境と生産環境の調和

本市の主要な工場は市街地のなかに立地しています。今後も、本市の活力を支える生産環境の維持と良好な住まい環境との調和が必要で、そのためには住宅と工場の相互協力が望まれます。

例えば、工場ができるだけ緑化を進めみどりを維持できるように地域住民が手伝えるなど、地域と地域の一員である工場が、協力しあえる方法を工夫していくことが考えられます。

そのためには、交流の機会を増やすことが望まれます。



工場の緑化（西八幡）